



小島教授退職記念号

## 小島 専孝 教授 略歴

昭和 29 年 2 月 4 日 新潟県新潟市に生まれる

### 学 歴

昭和 41 年 3 月 新潟大学教育学部附属新潟小学校卒業  
昭和 44 年 3 月 新潟大学教育学部附属新潟中学校卒業  
昭和 47 年 3 月 新潟県立新潟高等学校卒業  
昭和 47 年 4 月 京都大学経済学部入学  
昭和 52 年 3 月 京都大学経済学部経済学科卒業  
昭和 54 年 3 月 京都大学大学院経済学研究科修士課程修了  
昭和 57 年 3 月 京都大学大学院経済学研究科博士後期課程研究指導認定退学  
平成 9 年 7 月 京都大学博士（経済学）  
（『スラッフア・ホートリー・アバッティ——貨幣的経済理論としてのケインズ経済学形成史研究』）

### 職 歴

昭和 57 年 4 月 京都学園大学経済学部専任講師  
昭和 61 年 4 月 京都学園大学経済学部助教授  
平成 元 年 10 月 京都大学経済学部助教授  
平成 9 年 5 月 京都大学大学院経済学研究科教授  
平成 21 年 4 月 京都大学教育研究評議会評議員（平成 24 年 3 月まで）  
平成 22 年 4 月 京都大学大学院経済学研究科副研究科長（平成 24 年 3 月まで）



## 小島 専孝 教授 著作目録

### 著書 (単著)

『ケインズ理論の源泉——スラッファ、ホートリー、アバッティ——』 有斐閣 1997年7月

### (分担執筆)

瀬地山敏 (編) 『マクロエコノミクス』 第3章 「産出量と物価の決定」 昭和堂 1986年6月

飯原慶雄 (編) 『経営財務の学際的研究』 (日本経営財務研究会 『経営財務研究叢書』 第8巻) 第1章 「財務決定とシグナリング」 中央経済社 1986年10月

青木達彦 (編) 『金融脆弱性と不安定性』 第1章 「ミンスキー、フィッシャー、ホートリー」 日本経済評論社 1995年2月

### 論文

株主全員一致の理論について 経済論叢 第125巻第4号 1980年4月

株主全員一致の理論の再検討 経済論叢 第128巻第5・6号 1981年12月

資本市場のシグナリング・モデルについて 経済論叢 第135巻第5・6号 1985年6月

スクリーニング・取引費用・シグナリング 南山経営研究 第1巻第1号 1986年1月

スラッファのハイエク批判について 京都学園大学論集 第16巻第3号 1987年1月

スラッファのハイエク批判と『一般理論』——貨幣的生産理論形成におけるスラッファの重要性について—— 京都学園大学論集 第16巻第4号 1988年3月

ホートリー・コネクション I 経済論叢 第152巻第4・5号 1993年10月

ホートリー・コネクション II 経済論叢 第153巻第3・4号 1994年5月

ホートリー・コネクション III 経済論叢 第154巻第1号 1994年7月

アバッティの有効需要論 (1) 経済論叢 第156巻第1号 1995年7月

アバッティの有効需要論 (2) 経済論叢 第156巻第2号 1995年9月

アバッティのマクロ経済理論——不況の債務理論—— 経済論叢 第159巻第4号 1997年4月

The Hawtrey Connection——Fisher, Hawtrey and Keynes on the Nature of Money—— *The Kyoto University Economic Review*, vol. 65, No. 2 1997年3月

H. J. ダヴェンポートの貨幣的マクロ経済理論 経済論叢 第164巻第5号 1999年11月

ピグーのマクロ経済理論の基礎とホートリーのピグー批判 (1) 経済論叢 第172巻第5・6号 2003年11月

ピグーのマクロ経済理論の基礎とホートリーのピグー批判 (2) 経済論叢 第173巻第2号 2004年2月

ラヴィントンの景気理論 (1) 経済論叢 第174巻第2号 2004年8月

ラヴィントンの景気理論(2)	経済論叢 第174巻第3号	2004年9月
ピグーの『失業の理論』について	経済論叢 第177巻第4号	2006年4月
ピグーの実物経済モデル	経済論叢 第177巻第5・6号	2006年6月
ピグーの貨幣理論——数量方程式と利率——	経済論叢 第179巻第5・6号	2007年6月
『失業の理論』の貨幣的分析——標準貨幣制度と適正利率——	経済論叢 第180巻第3号	2007年9月
ピグーの長期失業論	鹿児島経済論集 第49巻第1号	2008年6月
初期ピグーの雇用・景気理論	経済論叢 第182巻第5・6号	2008年12月
スラッフアの商品利率とケインズの自己利率	経済論叢 第183巻第1号	2009年1月
ピグー・ケインズ・カルドア論争 1937-1938	経済論叢 第185巻第4号	2011年10月
ピグーの2部門モデル 1941	経済論叢 第186巻第2号	2013年3月
ピグーの「ピグー効果」1941	経済論叢 第187巻第2号	2013年8月
実質残高効果 1937-1947	経済論叢 第187巻第4号	2014年1月
ピグーの失業理論 1945	経済論叢 第188巻第1号	2014年2月
ピグーの戦争経済学	経済論叢 第188巻第3号	2014年10月
ピグーの貨幣所得理論——ピグー・モデルとケインズ・モデルの双対性	経済論叢 第189巻第1号	2015年4月
フォックスウェル「雇用の不規則性と価格変動」	経済論叢 第190巻第1号	2016年7月
ロバートソン『産業変動の研究』とマーシャル的伝統	経済論叢 第192巻第4号	2018年11月
ロバートソン『産業変動の研究』とアフタリオン	経済論叢 第193巻第1号	2019年2月